



東中学校だより(3) 令和3年5月10日

堯あかくそびえて建てり 校歌の一節より

佐久市立東中学校

〒385-0007 佐久市新子田 1396-1

Tel. 67-2392



私たちが目指すもの「虹～個性という名の光を集めて～」

生徒会役員の気持ちからすれば体育館で生徒総会を実施したかったことでしょう。しかし、その語り方、それまでの準備を思い浮かべられる進行など、役員姿勢は“流石”の一言に尽きると思いました。生徒会長の片桐楓人さんの生徒会テーマに込めた思いを文字でもう一度確認してみましょう。

東中学校令和3年度生徒会テーマ

虹 ～個性という名の光を集めて～

私たち役員会では、令和3年度の生徒会テーマを「虹」にしたいと考えました。私たちがこのテーマにした理由は、「みんな」で良い学校にしたいという全校の皆さんの思いにつながると思ったからです。

また「虹」は、一つの色だけではつukれないところ、良い学校も一人だけではつukれないところが共通している、「みんな」という言葉を大切にしたいという私たちの思いにもピッタリだと思い、このテーマを選びました。

その他にも「虹」には全校の皆さん一人ひとりが輝き、もっと学校を明るくしていこうという思いも込めました。



〈生徒会長：片桐楓人さん〉



〈放送での生徒総会に臨む東中生〉

サブテーマについて説明

します。サブテーマは「個性という名の光を集めて」にしました。もちろんメインテーマに通じるものもありますが、「虹」という言葉ひとつには込めきれない思いがありました。サブテーマに「個性という名の光」という言葉が入っています。この言葉こそメインテーマを「虹」にした理由でも述べた「色」のことです。一人ひとり、顔も声も性格も違うからこそ、それぞれがもっている「色」もまた異なります。それぞれ異なる色をもっている皆さんが、積極的に参加することで、協力し合ってほしいと願っています。一年間、このテーマのもとで励んでいきましょう。

東中生の姿に学ぶ先生たち

将棋界では18歳の藤井聡太八段に代表されるように若手棋士が台頭し、50歳の「将棋界のレジェンド」羽生善治九段は、苦闘の日々を過ごしています。しかし50歳を過ぎて若手「A」世代の感覚を吸収し、進化を止めない姿のある番組が紹介していました。これは何も将棋界に限ったことではないと思います。「先生に学ぶ東中生」だけでなく、「東中生に学ぶ先生」がいるのも「東中」のよさなのではないでしょうか。クラスの学級通信を見てみましょう。

①目の前の日常や当たり前前を大切にすることを教えられた先生

先日、生活記録に目を通してこんな日記がありました。

私は中3になってから心がけていることがあります。中学校生活最後の年なので1日1日を大切に生活するというのを心がけています。その日に来年の今日はもう中学校にいないと思ってしまうことが多いのでこのことを心がけて生活しています。

そして日記の右上に卒業までのカウントダウンの数がありました。…目の前の日常や当たり前前を大切にすることをこの日記に教えられた気がしました。

②「朝の読書」の姿に感心させられる先生

「2年生らしいなあ」と感じる場面をいくつも目にしてきました。その一つが「朝の読書」。時間前には静かな状態になっており、読書前の放送が鳴ってからの切り替えが早いです。…

③先生の“想像”を超える生徒の姿に“確信”を抱いた先生

学級目標を決めていく上で、ほぼ全員が入りたいキーワードとして「協力」「一生懸命」「メリハリ」「仲良く」などを書いてくれました。みんなが私の想像以上に真剣に考え、目標を考える姿を見て、「どんな目標になっても絶対いいクラスになるな」と確信しました。

学級目標を話し合いました。どんなクラスにしたいのか、そのためにはどうしたらいいのか。私が6年生の時全体で「一生懸命」というキーワードを大切にしていました。なので、今でも一人一人が何事にも一生懸命に取り組めるクラスにしたいと思いました。